

野菜の営農情報

《9月中～下旬の技術対策》

空知農業改良普及センター

tel 0126-23-2900

fax 0126-22-2838

www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/soc/index.htm

全作物共通

- 1 ハウス等施設は、台風や大雨に備えて周囲の排水対策やハウスの締め直しなど、風雨に対する備えに常時留意してください。
- 2 農薬の使用に当たっては使用基準を守りましょう。
- 3 9月下旬は、最低気温が一桁台に低下する場合もあるので、施設栽培では夜間の保温に留意してください。
- 4 露地野菜は排水対策を行い、収穫後は有機物の施用に努めましょう。

	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
果菜類		
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> ・気温の低下とともに、着色の遅れや裂果が増えてきます。夕方は早めにハウスを閉め、最低気温15℃以上を確保しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斑点病、灰色かび病、うどんこ病などの発生が見られます。ハウス内の換気と防除に努めて下さい。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・夜温の低下とともに、つるの伸長や果実肥大が緩慢となっています。早めにハウスを閉め保温に努めましょう。 ・つるは放任とします。 ・適宜かん水や追肥を行い、果実肥大を促進させましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・褐斑病、べと病、うどんこ病などの発生が見られます。日中のハウス内の換気と防除、古葉の除去に努めて下さい。
いちご (夏秋どり)	<ul style="list-style-type: none"> ・気温の低下に伴い果実の着色が緩慢となります。夕方はハウスを早目に閉めるとともに、朝にハウスを開けるタイミングも遅らせて、ハウス内の保温に努めましょう。 ・「すすあかね」は、今後、気温の低下に伴う着色不良果の発生を軽減するため、肥料濃度を徐々に下げましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病が発生しています。ローテーション防除に努めましょう。 ・株疲れが回復していないほ場では、うどんこ病の発生が懸念されますので、予防防除に努めましょう。 ・アザミウマ類やハダニ類の防除も引き続き行いましょう。
葉菜類		
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・粗選別は機械の処理速度を抑え、発病球が混入しないように慎重に選別を行いましょう。 	-
露地ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫が遅れないよう、適期収穫に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉枯病や黒斑病、さび病の発生に注意し、計画的な防除に努めましょう。
はくさい	<ul style="list-style-type: none"> ・排水不良などによる生育不良ほ場は、葉面散布を行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軟腐病、コナガの発生が見られます。防除を行いましょう。
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培：来春の収穫量を確保するためにもかん水不足に注意しましょう。また、ハウス被覆、かん水等の管理はできるだけ長く行いましょう。 ・夜温は15℃以上の確保に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨトウガの発生の多い時期です。若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。 ・露地栽培：茎葉の養分を効率よく根に転流させ、来春の収量を確保するため、斑点病・茎枯病の防除を実施しましょう。